

市長の窓

しげ のぶ
滋宣の

ぼう ちゅう かん

あん ちゅう めい



イラスト
小熊真二さん

“忙中閑あり 暗中明あり”

その 51

～ 山眠る ～

山は四季折々に姿を変えます。冬には活動を止め、まるで眠っているかのように静寂のときを迎えます。

「山眠る」という表現は中国北宋^{ほくそう}の画家郭熙^{かく}の言葉、「冬山惨淡として眠るが如し^{ごと}」に由来します。

眠りから覚め、草木が一斉に芽吹き、明るく生気に満ちた春の山を「山笑う」、秋になって、草や木々の葉が赤や黄に色づき、美しい衣装をまとうように見える秋の山を「山粧^{やまよそお}う」、青葉茂り水が滴るように美しい夏の山を「山滴^{やましたた}る」といいます。

どの言葉を取っても山への思いがこもっており、山を恐れると同時に、受け入れ共生していこうという思いが伝わってきます。

とだし眼の うらにも山の ねむりけり
(木下夕爾^{ゆうじ})

能代市長 齊藤 滋宣



bjリーグ公式戦「秋田ノーザンハピネッツ対滋賀レイクスターズ」の試合前にあいさつを行いました。(1月12日、能代市総合体育館)